■相模原・県央

中学生に「夢」託す

相模原商議所・都産研

まちづくりテーマに冊子　「自立」呼び掛け

相模原商工会議所・都市産業研究会（都産研、中村昌治会長）は21日までに、15年後のまちづくりの夢を託そうと、「未来を切り拓く中学生への提言」をテーマに冊子を作成した。自然環境や農地の効果的活用、省エネルギーを重視し、無秩序な開発とならない、人に優しいまちづくりの「グリーン・コンパクトシティ」などを目標として取り上げ、産業界の立場から「自立都市・相模原」の実現を中学生に呼び掛けている。市教育委員会は冊子を総合的な学習の時間や進路学習で活用する方針だ。

（石曽根　剛）

都産研は21日、市役所を訪れ、加山俊夫市長に冊子を手渡した。加山市長は「未来を担う子どもたちにとってよいメッセージとなる」と述べた。

冊子は都産研の会員18人が文章をまとめたほか、都産研に語呂を合わせた「とさん犬」というオリジナルキャラクターも作り、掲載している。都産研によると、カラー刷りで、とさん犬が中学生に語り掛ける形式とし、親しみやすさを心掛けたという。

15年後は人口減少社会になると予測し、それに対応したグリーン・コンパクトシティの実現や地産地消の重視、安全・安心なまちづくりなどを提言している。また、「未来の夢を実現する君へ」と題し、相模原発信の宇宙ビジネスなども期待する壮大な夢として掲げている。

中村会長は「未来への羅針盤として、中学生に興味を持って読んでもらえたらうれしい」と話している。

冊子はA5判、14ページで約3千部作製。さらに約1万部増刷し、市教委を通じて、市立中学校の3年生全員約6千人に無料配布するほか、一般の希望者にも無料配布するという。申し込み・問い合わせは、相模原商工会議所☎042（753）1315。

中村会長（右）から冊子を受け取る加山市長＝相模原市役所

厚木市立病院

救急・がん医療充実へ

建て替え基本計画　17年度開院目指す

厚木市は21日、老朽化が進んでいる市立病院（同市水引1丁目）の建て替え整備に向けた基本計画を発表した。それによると、2010年度から施設の設計に着手し、17年4月の新病院開院を目指して、地域医療の中心的役割を果たすため救急・がん医療の充実などを図るという。

市立病院は現在15診療科で、病床数は356床。整備基本計画では、新病院の病床数は345床で、脳卒中や心筋梗塞など「急性期」の患者に対応したリハビリテーション科と救急部が増え17診療科となる。果たすべき役割として①救急医療の充実②地域医療の中心的役割③がん医療の充実―を挙げ、集中治療室（ICU）などを新たに設ける。

建て替えは現在地（敷地約1万9400平方㍍）を利用、10～11年度で基本・実施設計、12～16年度で建設・工事を行う。総事業費は約170億円で、市では本年度当初予算に病院整備基金6億円を計上している。建て替えに際しては、入院・通院患者に負担をかけることなく、医療機能を維持したままで進めていくという。

厚木市立病院は、03年4月に県立厚木病院の移譲を受け開設。施設は県立病院時代に建設され、本館が築45年など老朽化が進んでいる。

海老名市

登別市に消防車寄贈

規制強化、廃車予定の5台

海老名市は排ガス規制強化で廃車になる消防ポンプ車を登別市に寄贈した。「自動車NOx・PM法」の制定に伴い、海老名市もいずれも昭和の年代のもので、贈られた5台と更新するという。

寄贈式で、小笠原市長は「市民の財産と生命を守る消防車をどうしたらいいのか庁内で議論していた。財

南区の八重桜

ピンク色の散歩道

相模原市南区下溝「上中丸」交差点から「ウオーキングロード下」交差点まで、市道沿いに花を咲かせる八重桜の花が満開を迎えている。

同区相模大野の歩道を覆うように花を咲かせる八重桜は、5月中旬までが楽しみ。

「今日は八重桜がよいと思った。まだ満開ではないが、満開が楽しみ」という。

情報は相模原総局☎042（75